

「不登校経験者等を対象とする調査」

～不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進に向けた調査研究報告書（概要）～

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

文部科学省では、今後の不登校児童生徒への支援策の参考とするため、18 歳から 59 歳までの不登校経験者等を対象とする調査・分析を実施。（委託先：有限責任監査法人トーマツ）

1. 調査概要

（１）パネルを活用したインターネットによる調査（令和 7 年 2 月～ 3 月）

調査対象は、マーケティングリサーチ会社が有するパネルに登録されている 18 歳から 59 歳までの、小・中学校において不登校を経験したことがあると回答した者（18,207 人）

（２）オンラインによる調査（令和 7 年 3 月）

支援団体や自治体などからの協力依頼に応諾した 18 歳から 59 歳までの、小・中学校において不登校を経験した者（321 人）

※インターネット調査に比べて、支援団体等から支援を受けた者、若年層の割合が高い。

（３）インタビューによる調査（令和 7 年 3 月）

上記（２）のオンラインによる調査に応じた小・中学校において不登校を経験した者（13 人）と、オンラインによる調査への協力依頼を行った支援団体（4 団体）

2. 調査・分析結果の主な点

（１）インターネットによる調査、オンラインによる調査からの状況

○学校を休みはじめた学年と時期

＜インターネットによる調査＞

・小学校 1 年生	6.4%
・小学校 2 年生	4.2%
・小学校 3 年生	8.6%
・小学校 4 年生	10.7%
・小学校 5 年生	14.0%
・小学校 6 年生	9.2%
・中学校 1 年生	16.5%
・中学校 2 年生	19.7%
・中学校 3 年生	10.8%

＜オンラインによる調査＞

・小学校 1 年生	5.9%
・小学校 2 年生	6.9%
・小学校 3 年生	11.5%
・小学校 4 年生	10.3%
・小学校 5 年生	16.8%
・小学校 6 年生	6.2%
・中学校 1 年生	23.1%
・中学校 2 年生	13.4%
・中学校 3 年生	5.9%

休みはじめた時期については、インターネット調査では「8 月～12 月」が 46.1%、「4 月～7 月」が 43.3%、「1 月～3 月」が 10.6%、オンライン調査では「8 月～12 月」が 46.4%、「4 月～7 月」が 41.7%、「1 月～3 月」が 11.8%と、いずれも「8 月～12 月」の割合が最も高かった。

○学校を休みはじめたきっかけ（複数回答可） ※上位5つ

＜インターネットによる調査＞

- ・友人との関係（いやがらせやいじめ） 47.5%
- ・精神的不調（漠然とした不安や気持ちの落ち込みなど） 25.0%
- ・学校生活に対してやる気が出なかった 24.5%
- ・先生との関係（先生と合わなかったなど） 20.4%
- ・友人との関係（いやがらせやいじめを除く） 20.0%

※友人関係について年代別に見ると、10代後半から30代後半は、「友人（いやがらせやいじめを除く）」が有意に多いのに対して、40代前半～50代後半においては、「友人との関係（いやがらせやいじめ）」が有意に多い。

＜オンラインによる調査＞ ※インターネット調査に比して、若年層の割合が高い

- ・精神的不調（漠然とした不安や気持ちの落ち込みなど） 46.4%
- ・身体的不調（学校に行こうとすると腹痛や頭痛に襲われたなど） 36.8%
- ・友人との関係（いやがらせやいじめ） 35.2%
- ・学校生活に対してやる気が出なかった 33.0%
- ・先生との関係（先生と合わなかったなど） 31.8%

○不登校当時に相談した機関や人（複数回答可）

＜インターネットによる調査＞

- ・教育支援センター（適応指導教室）・教育相談所 9.7%
- ・児童相談所・福祉事務所 6.9%
- ・保健所・保健センター 4.0%
- ・病院・診療所 12.0%
- ・民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など） 7.3%
- ・上記以外で当時の在籍校以外の心理相談・カウンセリングなどをする機関 5.2%
- ・学校の先生（担任の先生や保健室の先生など） 21.1%
- ・学校にいる相談員（スクールカウンセラーなど） 11.0%
- ・SNSや電話相談 3.1%
- ・その他 1.8%
- ・なし 51.1%

＜オンラインによる調査＞ ※インターネット調査に比して、若年層の割合が高い

- ・教育支援センター（適応指導教室）・教育相談所 32.7%
- ・児童相談所・福祉事務所 6.9%
- ・保健所・保健センター 3.4%
- ・病院・診療所 33.3%
- ・民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など） 29.6%
- ・上記以外で当時の在籍校以外の心理相談・カウンセリングなどをする機関 9.3%
- ・学校の先生（担任の先生や保健室の先生など） 42.4%
- ・学校にいる相談員（スクールカウンセラーなど） 30.2%
- ・SNSや電話相談 3.1%
- ・その他 5.9%
- ・なし 20.2%

○不登校経験と中学校卒業後の経験との関連（小・中学生の頃に不登校を経験したことで、中学校卒業後今までに、次のようなことがあったか）

＜インターネットによる調査＞

	「おおいにあった」 「ある程度あった」の計	「あまりなかった」 「ほとんどなかった」の計
・学業（受験、資格試験など）で苦勞した	52.2%	47.8%
・仕事（就職活動を含む）で苦勞した	52.9%	47.1%
・体力が低下したり不足したりして苦勞した	46.5%	53.5%
・生活リズムが乱れ苦勞した	55.5%	44.5%
・人との関わりに不安を感じたり、人と関わりをもつことに苦勞した	70.0%	30.0%
・成長した、視野が広がった	53.8%	46.2%
・人に優しくなった、人の痛みが分かるようになった	67.5%	32.5%

＜オンラインによる調査＞

	「おおいにあった」 「ある程度あった」の計	「あまりなかった」 「ほとんどなかった」の計
・学業（受験、資格試験など）で苦勞した	58.6%	41.4%
・仕事（就職活動を含む）で苦勞した	49.2%	50.8%
・体力が低下したり不足したりして苦勞した	59.5%	40.5%
・生活リズムが乱れ苦勞した	56.7%	43.3%
・人との関わりに不安を感じたり、人と関わりをもつことに苦勞した	75.1%	24.9%
・成長した、視野が広がった	78.8%	21.2%
・人に優しくなった、人の痛みが分かるようになった	82.6%	17.4%

○不登校当時の支援のニーズ（不登校だった当時に欲しかった相談や手助け）（複数回答可）

※上位5つ

＜インターネットによる調査＞

・自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての相談や手助け	33.3%
・とくにない	31.3%
・精神的・身体的な不調についての相談や手助け	31.0%
・学校の勉強についての相談や手助け	22.3%
・友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所についての情報提供	20.8%

＜オンラインによる調査＞ ※インターネット調査に比して、若年層の割合が高い

・自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての相談や手助け	47.0%
・精神的・身体的な不調についての相談や手助け	43.9%
・友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所についての情報提供	41.4%
・学校の勉強についての相談や手助け	35.8%
・進学するための相談や手助け	34.6%

(2) インタビューによる調査から見た不登校の状況

不登校の時にあればよかったと思う支援について、インターネットによる調査等では明確に示されなかったが、不登校になった時に受けられる支援や支援先等に関する情報を得ることが難しく、不登校になって学校との関係が希薄になった際、相談先がなく悩みを抱え込む姿等が窺えた。

また、自身の経験等を活かして、不登校の児童生徒の手助けとなれるよう、福祉系や心理系の進路を目指したり、実際に職に就いたりしている例等も複数見られた。